

中京大学英米文化・文学会会員による 著書紹介

シリーズ認知言語学入門第5巻『認知文法論 II』

都築雅子（教養部教授）他著

人は必要に応じ、文が使われる場面や自らの経験・記憶などを想起し、主体的に推論を働かせながら、能動的に意味内容を創り出す。こうした言語観を背景に様々な興味深い成果をあげつつある認知言語学の入門シリーズ全六巻の第五巻である。

本書は、受身文、二重目的語構文、結果構文など馴染み深い構文に焦点を当て、構文構造には「際立ち」、「注目」などの認知的要因が深く関与していることを論じる。初学者向けとはいえ、各著者の最新の分析も取り入れられ、研究者にも有益な一冊。

大修館書店刊。301 頁。本体価格 2,300 円。

Broadening the Horizon of Linguistic Politeness

(Pragmatics & Beyond new Series Vol. 139)

ロビン・レーコフ他編著 都築雅子（教養部教授）、高橋和弘（情報科学部助教授）、シンシア・パチキ（教養部助教授）、張勤（教養部教授）他著

言語学的ポライトネス（相手への配慮の言語への反映）の研究は、本書の編著者であるロビン・レーコフ氏の一連の著述に端を発し、